

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉
会 長 小 野 祐 司

向春の候、皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、本事業にひとかたならぬ御厚誼を賜り深謝申し上げます。

さて、本年も生徒研究発表会を開催する運びとなりました。現状を踏まえ、昨年と同様に「動画撮影によるホームページ掲載による開催」と致しました。

発表は「ポスターセッション」と「パワーポイント」をメインとする発表ですが、ホームページ掲載となる発表は、視聴者を意識しなければならず、新たな視点を探索するなど、苦勞もあったことと思います。

今回、ホームページを拝見したところ、1年間の課題研究の時間だけでは、結論まで導くことが難しいと思われる研究が散見されました。課題研究で大変なのがテーマ決めですが、テーマを決め1年間の予定を考え実行していくことがいかに難しいか。あまりに大きなテーマですと予算・敷地・保管場所にも困り、1年間では完成ができなくなってしまいますし、簡単すぎるとただ作業を進めるだけになってしまう傾向があります。

考えたテーマの内容を更に良くしていくには、知識と技能が必要になり、知識は教科書・インターネット・担当の先生の意見などを参考にし、技能は放課後等に磨いていくしかなかったですが、プロである企業や大学・専門学校の知識と技能を教えてもらうことも選択肢に含まれるようになり、計画の幅が広がり、学校外の交流がとても大切であることを実感しています。

10年ほど前までは、課題研究も作品を製作するのが主たる目的で、作品を完成させ、発表したら完了でしたが、工業高校内だけでなく他の視点からの意見を頂いたところ、作っただけで終わりでは研究としては相応しくないのではないか。などの意見を頂くようになり、より良い研究にするために、壁に突き当たったところで改善点の仮説を立て、検証し、結果を導き出し、考察に加えるなどの予定も組み込むようになってきています。

これからの課題研究は、単なるものづくりに留まらず、産・官・学と積極的に交流を図り、地域と連携して研究を進めることが、これからの主流になってきているように感じます。高校生の皆さんには、あと一步踏み出すこと、そして直接指導される先生方には、さらなる研修をお願いしたいと思います。

最後になりますが、協力して頂きました企業様をはじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。